

浪江の避難者 激励

軽トラックを店舗に見立てた直売市「桑折宿軽トラ市」は25日、浪江町からの避難住民が住む桑折町の桑折駅前仮設住宅で開かれた。本年度最後の市では、クラウン(道化師)によるショーが開かれたほか、各地に避難する浪江町民が出店し、同町の名物「なみえ焼そば」や冬物の衣料品を販売。子どもたちのほか、年越しに向け、浪江町の避難者らを元気づけた。



風船アートで子どもたちを魅了するクラウン

桑折の仮設で「軽トラ市」



復興への思いを込めた古里の味・なみえ焼そばで避難者を元気づける菅野さん(左)

にぎわい創出のために、町内の商店などでつくる実行委員会が主催し、今年で4年目。4月から毎月1回開き、本年度最後の市には、

顔パスが登場。クラウン2人が、風船で動物などを作る風船アートやジャグリングを披露し、子どもたちを楽しませた。

また、浪江町のショッピングセンター「サンプラザ」を経営するマツバヤが、中通りで初めての冬を迎える同町民のために、冬物の衣料品や靴などを販売。震災による津波で、なみえ焼そばを販売するための軽トラックしか残らなかったという屋台「すらっかん」の店主菅野典男さん(53)も出店。復興への熱い思いを込めた地元の名物を作り、同郷の避難者を元気づけた。

町内の特産品を販売する地元の団体など約20店舗が参加した。

今回は、クラウンの乗ったバスで被災地を巡る「笑顔パス」を企画する「プランニング開」(宮城県)の協力で、市の目玉として笑



中通りで初めての冬を迎える同郷の浪江町民のために、衣料品を販売する販売員ら